

## 第 2 回 (仮称) 宮っ子の誓い制定懇談会 (議事録)

■ 日 時 平成 19 年 10 月 3 日 (水) 午後 1 時 30 分～2 時 20 分

■ 会 場 教育委員室

■ 出席者

懇談会委員：鎌倉委員，小島委員，石下委員，佐々木 (英) 委員，古川委員，松本委員，  
大場委員，渡邊委員，西委員，南木委員，板井委員，

事務局：教育長，教育次長，教育次長 (学校担当)，教育企画課長，  
教育企画課総務担当主幹，学校管理課長，学校教育課長，学校健康課長，  
生涯学習課長，文化課長補佐，スポーツ振興課長補佐，教育センター所長，  
教育企画課長補佐，教育企画課企画係長，文化課指導主事，事務局職員

■ 傍聴者 なし

■ 会議経過

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

(1) 第 1 回会議の議事録について

4 議題

(1) 基本的な考え方について

(2) 制定方針について

(3) 活用方策について

〈委員からの主な意見・質問等 (要旨)〉

(1) 基本的な考え方について

(2) 制定方針について

佐々木委員：県においては、「いいひといいことつぎつぎ」とちぎ」などのキャッチフレーズのもと，様々なことにチャレンジすることを表現している。この誓いにおいても「挑戦」という内容を盛り込むことを考えているか。

事務局：ここでは，目標実現の中に，挑戦についての項目を盛り込む予定である。

南木委員：ルールやマナーを守ることが示されているが，法律違反まで低年齢化している状況を踏まえると，しっかりと指導をしてほしい。

(3) 活用方策について

大場委員：資料 4 の「2 活用例」は，推進方策につながるのではないかと。

鎌倉会長：大きい行事の時には，市民憲章などの唱和を行っているが，学校にはパネルなどをはっている。

古川委員：目標を見失いかけた子どもがもう一回考え直してもらえるようなものがある。学校教育スタンダードや学校教育目標など方針がたくさんある中で、地域や家庭に関係するようなものがある。例えば、「ふるさとを愛する」「自分さがしをする」など学校とはなれたものがある。子どもの誓いであると同時に親の誓いでもある。

松本委員：地域ボランティアなどを行っている、子どもたちはいろいろなことをやり過ぎていくように思う。挑戦もいいが、我慢することも大切であると思う。ルールやマナーは、子ども以上に大人が守るべきである。また、メロディをつけられるようなリズムがあるものがある。

西 委員：学校教育との関係はどのようになっているのか。

事務局：学校教育スタンダードなどでは、「あいさつ、朝食、漢字に計算」などのキャッチフレーズを掲げているが、宮っ子の誓いについては、学校に限らず幅広く地域や家庭も含めた内容を考えている。

板井委員：学校教育だけでないという話であったが、学校行事の場で使うとすると、子どもがいる家庭には浸透するが、それ以外の人はどうしたらよいか考えるべきである。前回の懇談会でも申し上げたが、学校を卒業すると地域が関係ないように思えてくる。子どもだけでなく、大人にも通じるような内容にしてほしい。そのように考えると活用方法も変わってくる。

南木委員：学校はもちろん、家庭でも実践できるようにしてほしい。

大場委員：子どもと親ということから考えていくと学校だけではなく、様々な場に提示していくことが必要である。家庭に普及啓発していくことが大切であり、浸透できるようにしていく。身近な地域の中で育むことが大切であると思うが、自治会などに入らない人も多いので、課題がある。

佐々木委員：6年生の総合的な学習の時間で講師として話をしたが、その前に市民憲章を唱和した。唱和をすることは雰囲気をつくるために、いい方法であると感じた。

石下委員：賀詞交換会などで市民憲章を唱和することがあるが、紙を見ながら唱和しており、みんな覚えていないのが現状である。封筒などにどんどん記載し PR していくことが大切である。どんなによい「宮っ子の誓い」を作っても自己満足で終わってはいけないと思う。作って普及することが大切である。

小島委員：子どもが唱和などをする中で、保護者に浸透するものであると考えており、最初から保護者を視野に入れることは難しい。

また、市民憲章のようなものをイメージされている人が多いが、子ども版の市民憲章は作りたくない。市民憲章とはちがうものにしていくことで、意識を変えていくことが大切である。

渡邊委員：前回の話し合いから、「子どもが唱和できる。」「子どもの視点を大切にする。」

といったことが話題になっている。宮っ子の誓いは、他の地域と同じようなものを作っても意味がないので、本市として特色のあるもの、伝統的なものなどが必要である。

また、「子どもが育つ魔法の言葉」のような親に対しての誓いのようなものも必要ではないか。親は親として、自分に語りかけるようなものが必要である。宮っ子の誓いを意識してもらうために、親の意識を変える必要であると考えている。

鎌倉会長：親の意識を変えるために、子どもにつくらせるということも一つのアイデアであると思う。

佐々木委員：子どもに作らせるのはいい意見であると思う。私の地域は、歩け歩け大会を子どもの手によって企画運営を行っているが、学ぶところが多い。

事務局：10月の教育懇談会において「宮っ子のルールやマナーを考える」というテーマで、子どもの意見を集約する予定である。

鎌倉会長：私の経験から言っても校訓などは、忘れてしまうものである。印象に残るものをつくっていきたい。